

むかし「局アナ」いま「隠居」

乗っかる 重たい



上田 博章(絵・文)

1933年徳島市生まれ 大阪府在住
 ■京都大学農学部林学科卒業
 ■元朝日放送アナウンサー
 ■元池田マルチメディア代表取締役
 ■講演、朗読指導など以外は隠居中



「乗る」ことを「のっかる」と言う場合があります。

私の故郷、徳島をはじめ関西では、あまり使わない言葉ですが、「乗っかる」は「乗る」とは微妙に違って、可愛いものが、ちょこんと乗っているという感じではないでしょうか。

「戦前の昭和天皇は白馬に乗っかっておられました」
 「安倍首相が政府専用機に乗っかって出発しました」とは言いません。

子供や、お猿さんなどがひょい乗る場合などは「乗る」よりも、「乗っかる」の方が、可愛さが伝わってよろしいかと思いますが、「偉いさん」や「オッサン」が乗ったたりしたらアカンのです。

「乗っかる」のように「乗る」という行動を、可愛らしく表現したり、軽んじたり、あるいは、軽やかな様子を表わしたりする日常語は、ニュースの原稿には滅多に出て来ません。

安倍首相が「乗る」のはいいが「乗っかる」はどうも…なんて書いていたとき、

安倍さんがアメリカ海軍の原子力空母に乗って上機嫌だったというニュースに接しました。

「そりゃ良うござんしたね」と言う気になれない私は、何と申しましょうか古老というか死に損ないというか…嫌でも思い出してしまふ記憶があるのです。



一九六八年(昭和43年)、アメリカが誇る原子力空母「エンタープライズ号」が佐世保港に入港したときの騒ぎでした。

学生運動担当だった私は、佐世保に派遣され、安宿で雑魚寝しながら騒乱状態の佐世保市内で数日過ごしたことがあったのです。

生まれて初めて機動隊の催涙ガスを浴びました。

眼から「グワーン」という音が聞こえて、涙と鼻汁で顔はヌルヌル。

社会党、共産党、ベ平連はじめ、三派全学連など…中には日蓮宗の僧侶が数人ポンツクポンボンと太鼓を叩きながら、機動隊の前に立ちはだかつて、機動隊が持て余しているのが人目を引いていました。

あれほどの騒ぎになった張本人の「原子力空母」に、日本の首相が「乗っかって」いや「お乗りになって」曰く、「日米の絆のシンボルだ」と言って胸を張る その姿はさすが岸信介のお孫さん。感無量でございます。

48年前の佐世保事件では騒乱罪の適用こそなかったものの、佐世保の街はどう考えても騒乱状態でした。

でも、あの騒ぎのとき、安倍さんは中学生だったのですからねえ。

戦争も知らず、60年安保、70年安保もピンと来ない世代の政治家もさることながら、メディアだって、

「原子力空母の入港で騒然となった時代があった」

「原子力船「むつ」は一体どんなになってますねん」というような記事くらいテレビ画面や新聞紙上に大きく「乗っかる」ようにして頂きたいものです。

*

東芝に私と同名同名の「原発担当部長」がいました。原発反対の私は妙な因縁だなと思ったものです。

彼の努力で大いに利益を上げたと思われる東芝では、不正経理が露見し、決算の報告が延期されました。



室町社長

二度目の延期を発表したとき、室町社長がテレビの会見で、

「その責任は非常に重たい」とおっしゃったのですが、私の言語感覚からしますと「重たい」とは「重くて困る」「腹が立って嫌になるほど重い」という感じですから、

その重さを負担に感じて
忌々しげに発する言葉では
なかったでしょうか。

だとしますと室町さんは、
代表取締役 社長の責任を、
「重くて困っとる」

「忌々しいほど重い」

と感じていたのでしょうか。

そこらのタメクチ専門の
兄ちゃんや姉ちゃん風情が
そう言うのならともかく、
近ごろ テレビに出てくる

コメンテーターや、年配の
政治家が、「重い」と言えば
いいのに なぜか「重たい」
と言う人が増えてきました。

「これは非常に重たい法案
ですから…」

「有権者の皆さんに対する
責任は極めて重たい」

なんて言われますと、

「そない重うて困るんなら
政治家 辞めなはれ」

と 野次りたくなります。

しかし「重たい重たい」
と気軽に言うお人でも、

「天皇陛下のお言葉は誠に
重たい」

「社長の死を、重たく受け
止めました」

とは 言わんでしょう。

若い連中が、

「偉い人がテレビで言うて
たから、ええんとチャウ？」
なんて、言い訳のネタに
しないよう、テレビに出て

いるお偉い人は、ちゃんと
使い分けてほしいですね。

*

「重たい」とよく似た言葉で、
「眠たい」というのがあるの
ですが、「眠い」と「眠たい」
とは やはり微妙に違うと、
私は思っています。

単に、眠いのだけでなく、
「眠たい」というと、何だか、
「眠うて眠うてしゃあない」
「アホらして居眠りしそ」

という気持が 滲み出る
言葉ではないでしょうか。

「あの授業、受けていると
眠くなるなあ」と言うより、
「眠たくなるなあ」の方が

先生のダラけた講義ぶりが
より強く伝わって来ます。

刑事ドラマでは取調室の
シーンがよく出て来ますが、
しづとい容疑者を相手に、
強面の刑事さんが、

「コラッ。眠たいこと言う
てたらアカンぞ！」

関西弁で凄めば迫力満点。
私が犯人だったら白状して
しまうに違いありません。

「重たい、眠たい」の仲間
「じれったい」「けむたい」
などがあります。

何れも、そんなに有難く
ない気持ちで、「たい」で、
より強く表しています。

煙そのものに限らず「人間」
…それも「目の上のたん瘤」
みたいな人物を 形容する
場合が多いのではないで
しょうか。



「重たい」「眠たい」「煙たい」
のように「たい」が付いて
意味が強まったり鬱陶しい
感じになったりしますが、

それを、更に強く表現する
接尾語として「たらしい」
があります。

憎い↓憎たらしい
惨めな↓惨めたらしい

酷い↓酷たらしい
長い↓長たらしい

他にも、形容詞ではなく

動詞の「知る」に付いて、
「知つたらしい」
というのがありますし、

名詞「未練、嫌味」に付いて、
「未練たらしい」「嫌味た
らしい」というのがあります。

何れも「たらしい」が付く
ことで、鬱陶しさとか憎悪、
恐怖感などが 増幅される
のではないのでしょうか。

*

「がましい」も、よく似た
接尾語です。

鳥辭がましい
差し出がましい

当てつけがましい
言い訳がましい

恩着せがましい
押しつけがましい

などは、何れも悪し様な
意味合いが加味されますが、
この中で「晴れがましい」は
自分の気持ちを表す言葉で、

満更でもないが気が引ける
照れ臭い 面映ゆい という
「がましい」の中では例外的
存在と言えるでしょう。

「澁」とは「ほとり」のこと。
「鳥澁」は、むかし中国で、

大河の河口に集まる喧しい
連中のことを、そう呼んで
いたのだそうです。

なお「鳥澁がましい」を、
「痴がましい」と書く場合も
あるようです。☒

*

国語の書き取りテストで、
「差し出がましい」のことを
「差し手がましい」と書けば、
ペケ印をつけられてしまう
でしょう。

放送局のアナウンサーが、
「差しでがましい」のことを
「差し手がましい」と言うと、
視聴者から電話が掛かって
来るに違いありません。

ところが私の故郷四国や、
九州の一部に「手がましい」
というのがあるって、意味は
「差し出がましい」と同じ
ですが、「広辞苑」に載って
いませんので、共通語では
ないようです。

ところで差し出がましい
お人は口を出すだけでなく、
手も出します。そこで…、

「差し出がましい」の語源は
徳島弁の「手がましい」では
ないか。

さらに、「手がましい」の
語源は「手喧しい」であろう。
…これ、上田学説ですが、
ちよつと 牽強附会が過ぎ
ますかな？